

令和3年度 第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会会議録（要旨）

日時 令和3年12月1日（水） 午後2時開始 午後3時30分終了
場所 高岡の森弘前藩歴史館 映像・講話室
出席者 瀧本 壽史 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長
小山 伸吉 委員 葛西 修造 委員
小嶋 義憲 委員 工藤 利彦 委員
鎌田 龍 委員（7名）
欠席者 なし
事務局 館長 石岡 博之、館長補佐兼学芸員 鶴巻 秀樹、主幹兼運営係長 古川 五月、
主査兼学芸員 澁谷 悠子（4名）

次 第

案 件

- (1) 令和2年度事業報告について
 - (2) 令和3年度事業経過報告について
 - (3) 令和4年度事業計画について
-

委員長 今日は委員7人全員出席ということで、会議が成立しますので進めたいと思います。

委員長 それでは案件の1に入りたいと思います。令和2年度の事業報告について事務局からお願いします。

【資料に基づき事務局より案件1について説明】

委員長 抜刀術演武の事業のところに委託とありますが、他の事業は委託ではないのでしょうか。

事務局 昨年度は全て委託事業です。主催は歴史館で、事業を団体に委託しております。

委員長 事業内容はその団体に決めるということですか。

事務局 事業内容は歴史館で決め、それを実施可能な団体に委託しております。

委員長 抜刀術演武を実施すること自体は歴史館側で決め、それを実施できる団体を探す、ということですか。

事務局 はい、そうです。何をいつ頃、どのようにするか、内容を決めた上で、先方に打診、委託契約を結ぶという流れです。他の流鏝馬イベントなども同様に委託契約の形をとっております。

委員長 委託料ということで支出しているということですね。

委員長 他にございますか。

小嶋委員 これらの事業については、広報ひろさきに事前に掲載していますか。

事務局 はい、全て広報ひろさきに掲載しています。また、更にそれ以外にも、ホームページなど考えられる他の媒体全てに掲載して周知を図っております。

委員長 事業についてですが、ロビーコンサートはアンケートを実施した、とありますが、他の事業は実施していなかったのでしょうか。

事務局 流鏝馬などの屋外のイベント事業に関しては、筆記用具・アンケート用紙を配布し、更に記入場所を確保するとなると、難しい部分がありますので実施しておりませんでした。

委員長 流鏝馬については、イベント観覧者が528人、歴史館入館者は124人ということですが、この528人のうち124人が入館した、ということではないですね。

事務局 はい、流鏝馬イベントを観覧せずに歴史館に入館した方も含まれております。

委員長 屋外イベントについては、アンケートは取りづらい、とのことですが、観覧者の感想などは、どこで収集しますか。

事務局 流鏝馬、抜刀も昨年度は雨にたたられまして、屋外でのアンケートは、記入するための平らな場所や筆記用具などの確保が難しいので、今後も厳しいのではないかと考えております。

島内副委員長 私どももよくアンケートは実施しますが、紙媒体よりもスマホで簡単にできるようにしています。そうすることで、後の集計作業も簡単にできますので、そのような方法もあるのではないかと思います。

委員長 そうですね。QRコードを置いて、読み取って、後で送信していただく、というものです。そういうものは多くなりましたね。
参加者の感想などが返らないと次年度への改善点というのがなかなか見えてこないということがありますので、是非工夫していただければと思います。
他にいかがでしょうか。

小山委員 観光業の立場から申しますと、観覧料収入の数字について、更なる増収を意識することはありますか。

事務局 財政的には増収ということは無視できませんが、教育委員会としては、小中学生の利用が増えることが望ましいと考えますので、入館料の増収にだけ意識するというわけではございません。

- 小山委員** 確かにそうすね。
無料だから来館するのか、ということではないと思います。このコロナ禍というご時世、いろいろな展覧会を開催しても来場者数が大変少ないと聞きます。来年は回復しつつあるという予測のもとで、コロナ禍の影響以外の視点を考えてもいいのではないかと思います。
- 企画について全体的に、もう少しやわらかくてもいいのではないかと思います。私ども岩木山観光協会にいただいた問い合わせの中でこれはヒットだなと感じたのは、流鏝馬もそうですが全国的なブームもあると思われませんが、刀剣です。
- 子どもたち向けでも、親子一緒に来たくなるような企画の方向性を追及した方がよろしいのではないのでしょうか。
- 委員長** コロナによる臨時休館の影響で、開催日数は予定より減ってしまったにも関わらず、また、夏という季節も関係があるかもしれませんが、刀剣が一番来館者数は多いですね。
- 島内副委員長** 刀剣を扱ったアニメなども関係があるのかもしれませんが。
- 小山委員** 我々の観光協会に貼ってあるポスターを、会期が終わったら欲しいという人もおります。
- 委員長** ポスターは1枚いくらで販売していますか。
- 事務局** 1枚 400 円です。ポスター販売の中でも刀剣のポスターが最も売れ行きがいいです。
- 鎌田委員** 刀剣を扱ったゲームもあって、そちらは主に若い女性に人気ようですが、そもそも刀剣は武器ですので、男の子も好むということがあります。そのような点でも男女の偏りもなく、興味をひかれやすい題材が刀剣なのではないかと思います。
- 委員長** この歴史館以上に刀剣に関する展示をしているところは、県内には他にはなくここが一番ですね。
- 小嶋委員** 東北地方に範囲を広げれば、どのようなところがありますか。
- 事務局** 東北ですと、鹽竈神社博物館や一関博物館になります。
当歴史館の刀剣展は、展示点数は多いのですが、常時一部屋が刀剣の展示、ということになると、一関博物館です。
- 小嶋委員** 刀剣の研磨というものは見る機会がほとんどないので、研磨を見せるということがかつて提案したことがありました。
そのためには、スペースはそれほど必要ではないですが、展示するとなると、なかなか厳しい面はありますね。
- 事務局** 以前、刀剣の研磨というものは、どのようなものなのかがわかるような工程を示した刀剣と砥石を寄贈いただいたものはあります。

小嶋委員 それらを展示してみるというのはいかがでしょうか。

事務局 刀剣研磨は、「動き」ですので、写真だけではなく、映像などと一緒に展示するのが最適とは思いますが。しかしながら、映像そのものや、それを放映する展示機器の問題も多く、展示に至らない状況です。

委員長 是非展示にこぎつけてもらえればと思います。

事務局 小嶋先生がおっしゃった、実演というのは、イベントという形ではあり得るかもしれませんが。ただ、県内で活躍されていた研ぎ師の方が最近他界されたこともあり、どなたに依頼するかという問題もまたあります。

作刀や研ぎという技術を皆さんにどのようにして知っていただくかというのは、今後、展示やイベントとしても課題になるのではないかと思います。

委員長 それでは 案件2に入ります。ご意見があればお願いします。

【資料に基づき事務局より案件2について説明】

委員長 途中経過ということではありますが、今年度の実施状況について何かご質問、ご意見ございましたらどうぞ。

工藤委員 歴史館の学校利用の部分について、内訳として学年はどのような状況になっていますか。

事務局 小学校であれば5・6年生が多いです。昨年度は4・5年生です。中学校であれば2年生です。

工藤委員 学校側からすると、見学の位置づけは、例えば社会体験などの見学なのか、授業の中での見学になりますでしょうか。

事務局 中学校では岩木スポーツセンターに宿泊体験学習に向かう2年生が途中で寄って見学しています。

工藤委員 それに関連することですが、今年度、岩木山神社に修学旅行生が大型バスで見学にきているのを何度か見かけましたが、他県・他市町村からの修学旅行生の来館はありますか。

事務局 来館の打診はありましたが、結果として見送りになったケースはありました。

工藤委員 歴史館側が受けていない、ということではなくて学校側の判断ということですね。

事務局 はい。コロナの感染拡大の影響で止む無く中止となっていました。

小嶋委員 八戸市や青森市の教育委員会へ、今後のためにも、歴史館のPR、情報提供があってもいいのではないかと思います。それから岩木青少年スポーツセンターにも情報発信を依頼することも必要かもしれません。

工藤委員 今年度までは、修学旅行は、青森や八戸の学校は、弘前までを範囲としていて、来年度については弘前市内の学校の予定を聞くと第1案は従来の東京に戻っているようです。ただ、計画は2段構えで、感染拡大状況によっては、弘前市内の学校であれば、県内または岩手中心の東北3県。おそらく他市町村も来年くらいまでは八戸から弘前、青森から弘前、北海道は変わらず弘前にきているので、その辺りでは機会はあるのかなと思われる。

それから先ほどスポーツセンターが話題にありましたが、私の学校からすぐ見えるスポーツセンターは去年から、大変多くの方がキャンプ利用をしています。平日、そして週末はものすごい数です。年代は若者だけではなく、高齢のご夫婦が2～3日滞在したりするケースや他県ナンバーの車も多く見えていますので、スポーツセンターにポスターを貼るといのは、効果的なのではないかと思います。

小嶋委員 旅館などにはポスターは配っていますでしょうか。

事務局 はい。特に岩木地区は重点的に配っております。
また、市内のホテルなども可能な限り配っております。

小山委員 ポスター自体についての意見ですが、刀剣・流鏑馬以外は地味だと感じます。
それから、県内外の方々の質問の傾向からすると、弘前藩の話になるので、盛岡藩との関係を掘り下げるなどはいかがでしょう。
そして、殿様たちに関するエピソードをもう少しかみ砕いて、一般の人が入りやすい、柔らかさがあってもいいのではないかと思います。

かつて民放ラジオの連続でやっていた為信につながるものがありましたが、ストーリー性もあって、人気があったように聞いています。

そういった、誰もが受け入れやすい要素は必要ではないでしょうか。

事務局 歴史館としても、より多くの方が興味を持ちやすい展示をしたいとは考えていますが、教育委員会の一施設として展示を行うということは、ある程度学術的に認められた説があり、かつ実物資料があることが前提となりますので、ストーリーが興味をひかれるからということで、それをすぐに展示にするということは、難しい面があると思われます。

事務局 また、津軽地方、そして弘前市の方々だけではなく、他の地域の一般の方々が見て、興味深いと思っていただけるような展示を作る努力は、必要であると考えております。

今年度の展示にも、弘前藩の藩主、家臣だけではなく、盛岡藩、八戸藩、仙台藩などの殿様のゆかりの刀剣ということで名刀といわれるものを併せて展示しましたが、今後もそのような企画は実施したいと考えております。

そして、ポスターのデザインについては、令和3年度については、お殿様たちの刀剣展、津軽と蝦夷地展については、デザイナーにデザインを依頼してみましたが、結果は良いものができたと感じます。今後もより目をひくようなものになるように意識していきたいと思います。

委員長 来館者のニーズについては、小・中学生にしても一般の人にしても、そのニーズの把握を継続的にしていく必要があると思います。来館者の居住地域や感想、要望などを継続的に積み重ねていくという作業を、先ほどのアンケートの件もありましたけれども、やっていただければありがたいと思います。また、先ほど、工藤先生が言われたように県内もいろいろなところから来館すると思いますので、周知の仕方についてもご検討いただければと思います。

小嶋委員 少しお聞きしたいのですが、為信の生まれについてです。青森県史の資料編の中に南部とのつながりの記述があったので、それを少し強めに出した企画をやるというのではいかがでしょうか。

事務局 青森県史の資料編に為信の生まれについて記述があるというのは、津軽家側、南部家側の資料を併存して出しているもので、通史編には、今のところ明確な記載はなく、両論、併記している状況かと思っておりますので、結論づけた形で展示会をやっていくというのは難しいと思います。

小嶋委員 客観的な、それを裏付ける、決定的な資料がなければ難しいということですね。

委員長 資料については、それぞれ南部家側、津軽家側のものがありますので、それらを両方展示することはできても、そこからどのように展開して、どういう方向にもっていくのか、ということになると思います。

小山委員 では、そういった内容についてパネルディスカッションをやる、などはいかがでしょうか。

委員長 そこについては、どの程度のニーズがあるかどうかだと思いますが。

事務局 展示ではありませんが、ロビーコンサートで、弘前演人や津軽カタリストによるドラマリーディング、琵琶の弾き語りや尺八など、物語としては、いろいろな方がそれぞれの立場でこれまで実施していただいておりますし、そのような方法でしたら可能かと思えます。

小嶋委員 展示という形にこだわらずに、他の形でできないものかお互いに意見を出し合ってできないものでしょうか。

事務局 例えばイベントシンポジウムのような形、というのは他のところでもやられていると思います。

委員長 そうなりますと、こちらの歴史館は信政が中心になってきているので、どちらかといえば市立博物館の企画という方がより適切かもしれません。

事務局 為信をとりあげて何かやる、となると、一施設が単独で行うというよりは市全体、という方が適当ではないかと思われます。

委員長 それでは今の議論を含めながら来年度にむけて、案件の3の方に移りたいと思います。説明をお願いします。

【資料に基づき事務局より案件3について説明】

委員長 来年度の入館者数の目標値は、コロナを考慮しない前提で 14,000 人ということですが、今年度はコロナがありながらも健闘していると思います。

来年度の展覧会では、武家のみやび、刀はやるということですが、他にこういうものを、そして、この展覧会であればどうか、などありましたらご意見ををお願いします。

小嶋委員 令和4年度の展示予定の「津軽刀工伝」で是非出してほしいと私が思うのは、二唐 国俊さんの伊勢神宮に奉納刀剣の控打ひかえうちがございませう。私も借りたことがあるので、これはおもしろいと思います。

そして、もう一つは岩木山の関係ではお山参詣の関係もみてるのもよろしいかと思ひます。

委員長 岩木山に関するこゝで、何かないでしうか。

小山委員 やはりお山参詣ですな。

お山参詣となるとそこにもう一つ温泉という歴史があります。

百沢には「百沢寺(ヒヤクタジ)」の史実もありますので、信仰などと併せてこれらのことは題材にはなるのではないかと思ひます。

委員長 岩木山といつてもこちら(弘前)側からしか見えるだけではなく、津軽全域から見えるのでこちらからだけの視点ではないですのうでな。岩木川も、いわゆる水系の視点で考へていくと、この辺だけではないものですよな。

小嶋委員 岩木山からクジラの骨が出たということがありましたな。

委員長 岩木山クジラですな。

小嶋委員 あの当時、岩木高校の生徒が行つて、あれを担いできましたが、そのクジラの骨は青森県立郷土館にあるので、岩木山の成り立ちの参考にできるのではないでしうか。

事務局 クジラの骨となると、自然科学系になることもありますので、それを紹介するとなるといろいろな条件が整わなければ困難なところですよ。

委員長 その他はいかがでしうか。

今年度の入館者数を見ても刀剣と武具甲冑のところが大変好評のようですよな。刀の方はコロナの影響で臨時休館のために展示期間が短くなったようですよな、刀をテーマとした展示は毎年実施するということですよな。

- 小嶋委員** イベント関係で少し気になるのは、屋外で行う演武です。雨の場合はどうするのでしょうか。
- 事務局** 雨の場合は中止すると決めております。
- 小嶋委員** そうなのですね。わかりました。
- 委員長** その他のところで、葛西(町会長)さんは地元町会関係で何かご発言はありますか。
- 葛西委員** 最近、自宅の倉庫などにコウモリがよく来るようになった気がします。この歴史館ができる前は、コウモリはこの杉林にいましたが、コウモリの住処について、何らかの影響が出たというようなことを、その分野の研究をしている方々から言われるということはなかったでしょうか。
- 事務局** 歴史館の建設にあたっては、計画していた段階では県の自然保護課と協議しながら進めてきましたが、自然環境に影響があるかなどについて事前の調査が必要である、という話はなく、特に他の団体からコウモリの住処がなくなったなどの話は来てはおりません。
- 葛西委員** もしもこの建物の中に入ってくるようなことがあれば大変だな、と思っています。
- 委員長** この建物に対してのコウモリの被害というのは特には無いですよ。
- 事務局** 今のところ被害はないです。
- 委員長** 工藤先生、学校の立場から何かありますか。
- 工藤委員** 先ほど伺った学校の見学の部分になりますが、来年は本校もぜひ伺いたいと思います。
- 委員長** 卍学での位置づけで、この歴史館を含めるということはないですか。
- 工藤委員** 市内の他の施設は見に行っていますが、なぜかここは見えていませんでした。
- 葛西委員** 先ほどのコウモリの話に付け加えますが、神社の周辺環境に関しては、夏場にアシナガバチの巣のことが話になったことがありました。
- 事務局** お客様からも神社にハチの巣がある、という話は何回かありました。
- 小嶋委員** 以前、高照神社にハチの巣ができて、訪れた人がハチに刺された、ということがありましたが、どうしてもハチの巣はついてしまいます。この歴史館に来る人は神社の方にも行くことが考えられますので、気を付けて行くしかないと思います。
- 委員長** そうですね。もし刺された人がいれば応急処置をするなどの対応をお願いします。
- 葛西委員** やはり注意書きも書いておいた方がいいのではないかと町会側でも思っています。
- 委員長** 最後に他に何かご発言はありませんか。
では、以上で本日の案件は終了ということで、事務局にお返しいたします。